

第531回IBC番組審議会

1. 開催日時 平成20年5月21日（水）午前11時
2. 開催場所 デジタルセンター3F Dホール
3. 委員の出席
委員数 11名
出席委員 8名
出席委員の氏名
委員長 田代 高章
副委員長 宮澤 徳雄
委 員 伊藤 史典 大村友貴美
河村 泰信 工藤 和彦
熊谷志衣子 小松 務

欠席委員の氏名 小林 英男 澤口たまみ
矢佐 俊幸

会社側出席者
阿部 正樹 代表取締役社長
川島 敬司 常務取締役
菅野 秀樹 取締役テレビ営業局長
柴田 継家 報道局長
川上 隆 ラジオセンター長
鎌田 英樹 テレビ編成局長
関 芳樹 制作グループディレクター

事務局
馬場由紀子 番組審議会事務局長
小笠原 勉 番組審議会事務局次長
4. 議 題 ラジオ番組 『岩手の特殊教育の父―柴内魁三伝―』

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- ・失明してもなお自暴自棄にならず、国家のために何ができるのかと考えるその志の高さ、その生き方に深く感銘を受けた。
- ・柴内さんが保護者や生徒たちに向かって話した言葉には、盲・聾啞の人たちだけでなく、健常者の人たちも十分に感銘を受けるのではないか、学校教育の場でこれを聴く機会があったらいいと思う。
- ・岩手訛りの肉声は人柄が偲ばれ、臨場感があり、まさに柴内さん自身の考え方をリアリティーを持って聞ける効果があった。
- ・ヘレン・ケラーが盛岡に来たことは知らなかったが、岩手盲啞学校訪問のエピソードのところは、非常に感動した。ラジオなのにそのシーンが目に浮かんで印象を強く受けた。
- ・女性宣教師や東京盲啞学校長に出会うまでの心の葛藤、盲学校設立の志を持つに至った心の動きも知りたい。岩手で盲啞学校を設立する際にいろいろな人々に援助協力を説いて回り、多くの支援を引き出した、その柴内さんの人間性、人柄などもっと掘り下げてほしかった。
- ・柴内さんを全く知らなかった。よく知られている先人、偉人だけでなく一般に知られていない人、もっと身近な人、我々と同時進行で生きている同時代の方の中で素晴らしい仕事、事業に取り組んでいる方々に光を当ててもらいたい。

<社側>

- ・ラジソンの中では盲人特殊教育をはじめ県立病院や市の水道事業に関して放送しましたが、今回はこれを再構成して、特殊教育に焦点を絞って制作しました。
- ・本人の葛藤した部分の証言は余りないが、盲学校をやろうと思った時、妻や子供、家族がいるというところで非常に悩んだ。乃木将軍に「止めろ」と言われたが、あえて逆らって私はやったというコメントがありました。
- ・人物伝ではあるが、今につながっていないと気が付いた。今学んでいる盲学校の生徒たちはどう感じているのか、これから社会にどのように旅立っていくのか、社会に対する不安や希望などを追加取材しなければと思い、今やり始めている。柴内魁三の「自分のことは自分でやれ、天を仰いで堂々と歩け」、これは一般の方にも当然言えることなので、そういう普遍性を持たせた番組にまとめたいと思っています。